昆虫類　＜チョウ目　ヤガ科＞　　愛知県：準絶滅危惧　（国：リスト外）
INSECTA　＜LEPIDOPTERA　NOCTUIDAE＞　　AICHI：NT　（JAPAN：－）

カバフキシタバ　*Catocala mirifica* Butler

【選定理由】

県内での生息が限定され、わずかな記録しかみられないが、その生息地である人里周辺にある温帯落葉樹林の二次林は、宅地や人工的公園の造成などによる開発や、目的のない雑木林の伐採などによって、本種存続の脅威が高まっている。

豊田市木瀬町, 2008 年 7 月 24 日, 間野隆裕 採集

【形　態】

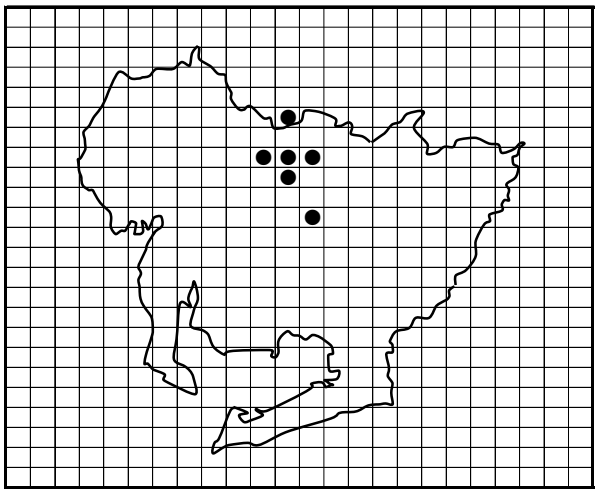
開張 51～55mm、前翅は灰白色を帯び、翅頂部に大きな暗色斑を表す。後翅の帯状に見られる黄色はかなり濃く、黒色帯の幅は狭い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市のみから記録されている。猿投町、御船町（田中ほか, 1991）、六所山（愛知県, 2002）の 20 年以上前の記録に加え、木瀬町と下川口町（間野・宮野, 2008）、大平町（宮野, 2011）において再確認された。

県内分布図



【国内の分布】

栃木県以西、中国・四国地方にかけて分布。兵庫、岡山、島根の各県に記録がある。中部地方では三重、岐阜、長野、福井各県にも採集記録がある。現在東海地方での恒常的な産地は伊賀市青山高原（松井, 1993）のみである。

【世界の分布】

中国に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

幼虫はバラ科のカマツカを食べる。成虫はアカマツ林内で 7～8 月頃出現し、地衣類に擬態し、昼間は地衣類が生えたアカマツの幹などに静止しているという。本種成虫がライトに誘引される時間帯は、深夜から明け方である場合が多い。成虫は樹液にも来るが、同属種の中でもっとも得にくい種の一つとなっている。

【現在の生息状況／減少の要因】

これまで県内で記録された一部の地点は、食樹が伐採されるなど環境変化が甚だしく、現在の生息は全く期待できないと思われる。また食樹のカマツカは県内に広く分布しているにもかかわらず本種が生息確認されていない理由については不明である。他県においてもかつての記録地は激減しているが、その理由は不明である。

【保全上の留意点】

アカマツの生育する二次林や里山の保全などにより、少なくとも食樹であるカマツカを残存させ、生息環境を残す事が急務である。

【引用文献】

間野隆裕, 2005. 鈴鹿市でカバフキシタバを採集. ひらくら, 49 (4): 65.
宮野昭彦, 2011. 豊田市大平町でカバフキシタバを採集. 佳香蝶, 63 (247): 62.
間野隆裕ほか, 2016. 18 チョウ目(ガ類) . 分冊その 2, Ⅸ昆虫類. 豊田市生物調査報告書: 223-354. 豊田市.
松井弘見, 1993. 阿山郡大山田村でカバフキシタバを採集. ひらくら, 37 (6): 104.
田中 蕃ほか, 1991. 愛知県の蛾類. 愛知県の昆虫, (下): 96-416. 愛知県.
愛知県, 2002. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいちー動物編ー. 愛知県.

【関連文献】

岸田泰典ほか, 2011. 日本産蛾類標準図鑑. Ⅱ. 学習研究社.
間野隆裕, 2004. 第 5 章 昆虫 第 10 節 チョウ目(ガ類). 上野市史 自然編: 723-747, 995-1030. 上野市.
間野隆裕, 2008. 第 5 章 昆虫類 第 13 節 鈴鹿市のガ類. 鈴鹿市の自然－鈴鹿市自然環境調査報告書－: 742-792. 鈴鹿市.
間野隆裕・宮野昭彦, 2008. カバフキシタバ・シラユキコヤガ・エゾスジヨトウの愛知県豊田市の記録. 誘蛾燈, (194): 105-107.
坂部元宏, 1966. 三重県でとれた珍しいガ類(ＸＸⅢ)カバフキシタバ. ひらくら, 10 (12): 104.

（間野隆裕）